



心のドア



国籍	ベトナム
職種	機械検査
実習実施者	光洋技研株式会社
監理団体	ユー・アイ・ケイ 協同組合

グエン ティ リエウ NGUYEN THI LIEU

3年前に、私はベトナムから日本に来ました。来日したばかりの頃は、日本語が下手で失敗ばかりしていました。仕事の時、上司と会話がうまくできなかつたので、身振り手振りをよく使っていました。社員寮に初めて入った日は、料理せずにパンを食べて、冷たいシャワーを浴びました。日本語で書かれたガス給湯器の使い方が読めなかつたのです。だから、料理することも、温かいシャワーを浴びることもできなかつたのです。

とにかく日本語がわからなくて困つたので疲れた時でも毎日少なくとも1時間は勉強するようにしました。勉強したことは、翌日すぐ日本人に話しかけて使ってみました。そうするうちに1年目に日本語能力試験N3、2年目にN2に合格することができました。今は日本人の職員さんとの関係も仕事も順調です。さらにレベルアップするために、今はN1やビジネス日本語を勉強しています。

私がこうして頑張れるのは、娘がいるからです。私は娘をベトナムの母に預けて日本に来ました。娘や母のことを思う時、不思議に思うことがあります。それは、日本のうちの玄関のドアがいつも閉まっていることです。ベトナムで

も、都会のうちの玄関のドアは閉まっていますが、地方のうちでは開けっぱなしです。近所の人と家族のように仲がよく、お互いの家を行き来します。母も私の娘を近所の人に預けて、安心して、買い物に行きます。だから、玄関のドアが閉まっているのを見ると、圧迫感を感じるし、冷たい感じがします。日本は少子高齢化や過疎化が進んでいるし近所付き合いも減っているのかもしれませんが。核家族化の影響で男性も女性も仕事で忙しく、夜遅くうちに帰ることも多いでしょう。若い人はうちに帰れば携帯電話やパソコンに向かうだけで、近所の人との人間関係には興味がないのかもしれませんが。日本とベトナムとでは文化が違いますが、私は地域の日本人達ともっと交流してみたいです。近所の人に急に話しかけたら、変な外国人だと思われるかもしれません。何か誤解されてしまっても、日本語でうまく説明できるように日本語の勉強をもっと頑張りたいと思います。

今年は新型コロナウイルス感染症による自粛のために、みんなとお花見ができなくてとても残念でした。外出自粛、イベントやセミナー等の延期や中止などの状況が何か月も続いています。感染症予防のためにソーシャルディスタンスを保つと、心の距離も遠くなる感じがします。だから、インターネットやソーシャルメディアなどを通じて人とのつながりや心の触れ合いを持ち続けることが大切です。それは精神状態を健康に保つことにもつながります。この感染症が収まったら、会社や地域の人達とお互いの国の文化を紹介し合う交流の機会を持ちたいです。日本で技術や言葉を学ぶだけではなく、日本・ベトナム両国の相互理解を促進させることができる人材になれるよう、私は頑張りたいと思います。